

C-73 日本人青年女子の肌色の季節の変化について オク報 新潟地区の高校生の色調
東京家政大家政 木曾山かね 新潟大教育 O山崎敏子

目的 本研究は、皮膚の色調と衣服の色彩との関係を考えるための、系統的な基礎資料を得る目的をもった基礎実験研究である。才25回統合に、山形新潟地区の女子大学生の色調を報告したが、今回は同地区の女子高校生の四季の色調を測定し、大学生の色調との関係も考察検討を行なった。

方法 測定は視感測定法で行なった。測定月日は、春期は1974年4月18日、室温14°C湿度65%、夏期は1974年6月6日、室温21°C湿度70%、秋期は1973年10月21日、室温16°C内外湿度68%、冬期は1974年2月13日、室温4°C湿度66%で、皮膚面の照度は450~500 Luxの間で測定した。被験者の年齢と人負は、17才103名、18才16名の計119名である。被験者の皮膚の状況は、化粧品をしない健康なる皮膚を測定した。着衣の状況は、夏期は半袖、他の季節は長袖を着用していた。被験者の家庭の職業は、商業、会社員、公務員を含めて53.8%、漁業2%、農業44.5%であった。

結果 測定部位により出現の傾向は異なるが、顔部と前腕外側は5.0YRに主流がみられ、胸骨部と上腕内側は7.5YRに主流がみられた。各季節間の動きをみると、上腕内側は、春夏秋とも7.5YRに主流があるが、冬は他の部位と異なり5.0YRの出現率が高くなり、彩度の高い、明度の低い色調が増加する。昨年同じ季節に測定実験した女子大学生の色調と、近似した傾向を示しているが、秋の胸骨部、上腕内側部の色調に、特徴がみられた。